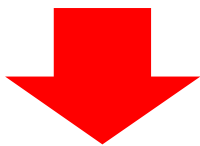


- **令和2年度末に、流域治水協議会を設置し、流域治水プロジェクトに着手。**
- **令和3年度、中下流域の河川整備に本格着手。**
一方で、地域特性に応じた**流域対策**について、地域の関係者の理解・共感・協力を得ながら**茂原市、長柄町、長南町における具体化を検討し、中間的にとりまとめ、流域治水プロジェクトを見直した。**また、**一宮町、睦沢町、長生村においても部会を設置した。**
- **令和4年度、上流域・支川の河川整備を新規事業化。**
一方で、**流域対策**については、**これまでの取組を更に推進**するとともに、**流域全体への展開**を図る。

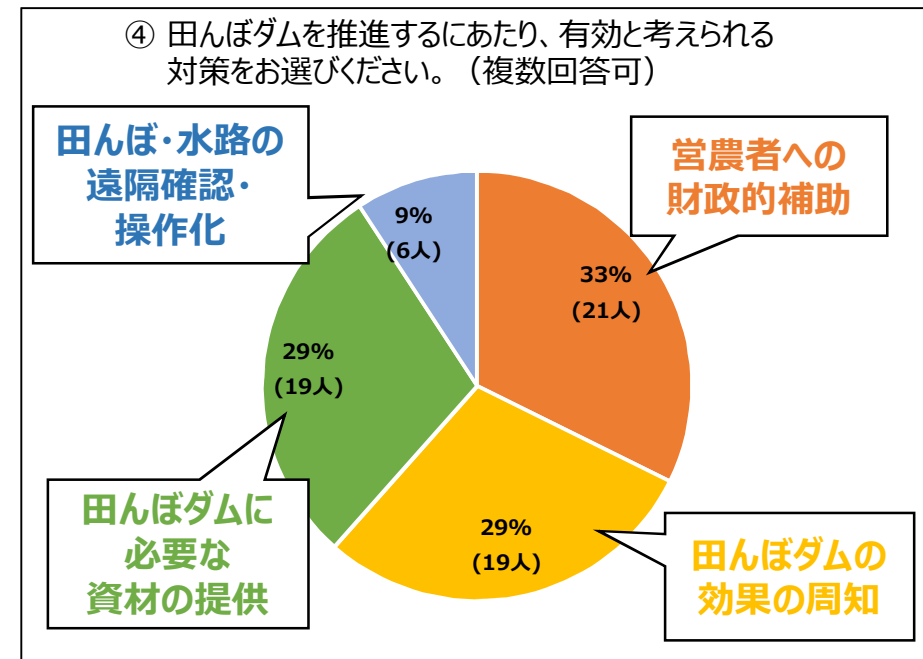
(参考) 田んぼダムに関するアンケート結果

- 田んぼダムによる洪水を緩和する効果
→ 「効果は（多少）あると感じられる」が全体の約 9 割
- 田んぼダムへの協力
→ 「是非、又は、内容によっては協力」が全体の約 8 割
- 推進に有効な対策
→ 「対策の支援」+「効果の周知」が全体の約 9 割



(考察・仮説)

- 協力のポテンシャルは高いが、**全員一致でスタートは難しい。**
- 支援を求めていることから、**取組に対する負担**を感じている。
- **効果の説明が十分**と感じていない。



流域対策の推進にあたっての問題意識

1. 部分的な合意を得ながら、それを維持し、さらに、**段階的に取り組みを広げていく**必要があるのではないか。
2. **流域対策を実施する地域や流域関係者**には、**負担・我慢が生じることを流域全体で理解**するとともに、**負担軽減**するといった考え方ができないか。
3. 河川整備は**実施量、実施効果（目標）**等を設定しているが、**流域対策**についても、「見える化」させるべきではないか。
（取り組むことによる効果、目標を流域全体で共有）

上記を踏まえ、**流域治水のマスタープラン**を策定し、**流域対策の考え方、目標、実施期間、実施内容**等を「見える化」し、**フォローアップ**することで推進してはどうか。

流域治水マスタープランの骨子イメージ

1. 基本理念

2. 目標

3. 実施期間

4. 実施内容・実施量

(1) 河川整備 ※一宮川水系河川整備計画による

(2) 流域対策

5. 実効性を担保・維持・向上させていくための仕組み